

第一節 獸類

赤牛および山牛

赤牛は内地黄牛に似たり。水牛は赤牛より大にしてその色灰色なり。共に台湾至るところに産す。水牛は常に水中に遊浴するを好む。炎日三日間水に浴せしめざれば必ず死すという。赤牛水牛ともに農耕に使用し、また車を挽かしむ。また赤牛水牛ともに肩骨隆起し、車柄の挽木を肩骨に掛けて挽かしむ。これ内地の牛と形状を異にするところなり。赤牛の肉は食用となすべきも味美ならず、また水牛は更に味なくして食するに耐えず。皮および角は種々なる用をなすをもって値貴きものなり。本島人は決して牛肉を食せず、曰く農耕を助け重荷の運搬を助くるものをもってこれを殺すときは禍ありという。また水牛は彼の角をもって人を突き殺すこと往々あり。内地人にしてその被害者少なからず。角は種々の材料となり、その長きは三四尺に達するものあり。花瓶、花挿にもっとも雅致あり。

穿山甲（せんざんこう）

穿山甲は学名「アリカトルヒネース」といい支那にては歩山虎という。「ザウリエル」種族の一種なり。元来「ザウリエル」属は多数の種類ありて、古来全世界に棲息せしが、今やアメリカおよびアジアの一部を除き、他はほとんどその足跡を絶つに至れり。そうして穿山甲は南部アジアにおける長き突口の「カウキアーレ鱷（わに）魚」よりはむしろ短き純粋「鱷魚」に類属し、珍貴なる種族の一なりという。欧州においては絶えて棲息せず、剥製穿山甲もまたきわめて稀有にしてロンドンなる「ブリチン博物館」「ドイツフランクフルト博物館」等に穿山甲の剥製あり。また「東京および香港博物館」等に剥製穿山甲あり。支那においてもこれを獲ること容易ならずという。本島において、蕃地に接したる地および蕃地等に棲息せり。土人これを喇鯉〔ラアライ〕という。土に穴して棲み、好みて蟻を食す。その蟻を捕らえんとするや、鱗甲を張り舌を出して死したるまねして待つ。蟻その肉を食わんとして鱗甲の間に入る。その時急に鱗甲を縮めて水に入り、鱗を緩め蟻の水面に浮かぶを取り食うという。

獺

獺は蕃地に接したる溪辺にあり。土人畏にてこれを捕う。大なるものは一草蓆（むしろ）大なるものあり。その用途すでに人の知るところなるをもってここに贅せず。

熊、豹

熊・豹は蕃地に棲息し、蕃人往々にしてこれを獲（とら）えてその皮を平地に持ち来たり交換す。

山猪

山猪〔ソンジイ〕は、我猪にして本島の山の接したる村庄至るところにあり。出でて農作物を荒らすをもって農夫大に困ず。時々官の許可を得て山猪狩を行ふといえども、その獲するところ僅少にして到底その害を除くに至らず。ゆえに農夫は畑に案山子を作り、鳴子を掛け、火を焚く等、昼夜その予防に汲々たりという。

猫

猫〔バア〕は、狸に類せる獣にして産地に接したる地、至るところに棲息す。よく人家に近づき鶏・鴨を捉え食う。土人は畏してこれを捕らえ市に鬻ぐ（売る）。その肉臭気あり美ならず。

石虎（せきこ）

石虎（※タイワンヤマネコ）は、その形猫に似て毛に虎斑あり。頭額より鼻筋に白点あり。これ山地に棲息す。土

人これを捕らえその毛を脱いて筆を作る。

羌仔

羌仔 [キウアア] (※キョン) は、鹿の種類にしてその形状および毛皮は普通の鹿に異ならず。体は洋狗大にして角あり。角に枝叉なきもの多し。本島山地に接したる地、至るところに棲息す。

鹿、猿、狐、狸

狐狸は本島に棲息せず。鹿は蕃地に多く猿は蕃地および蕃地に非ざる山地に接したるところに多く、殊に苗栗・三叉河・火炎山・双連潭 (※いずれも苗栗の地名) および打狗山 (※高雄山) 等、昼なお人家に近づき戯れをなす。また小琉球においては斑点ある鹿を家畜のごとく飼養しつつありという。

第二節 魚類

鱧魚

鱧魚 [シエヌヒイ] (※たうなぎ) は、全島至るところの池溝に生ず。そのかたち鰻のごとく鱗なく、頭は土鱧 (どじょう) に異ならず。尾は丸くして蛇のごとく、自然に細く尾端尖れり。一見異様に感ず。内地人はこれを食するものなきも土人は滋養ありとして珍重す。その血を残飯に混じて鶏・鶯を飼うときはたちまちにして肥ゆという。

鮎魚

鮎魚 [コオタイ] (※キャリコスネークヘッド 原文は魚へんに逮) は、鱗なくしてそのかたち土鱧 (どじょう) に似たり。頭は鮎 (かじか) のごとくして口やや尖り土鱧のごとし。北中部の地溝に生ず。これまた本島の特産たるを失わず。

鱧魚

鱧魚 [レエヒイ] (※スギ) は、南北ともに産す。かたち鱧 (ぼら) に似てやや小なり。鱗ありて全身虎斑のごとき斑あり。一見異様に感ず。その肉硬くして刺身に適す。

鱧魚

鱧魚 [リエヌヒイ] (※ハクレン) は、泥鱧にして全島至るところの土人、魚苗を池沼に放ちて養う。大きき一二尺より三四尺なるものあり。肉軟らかなれども煮食に適す。今台南博物館にあるものは大目降支庁 (※現在の台南市新化区) 下虎頭埤にて捕獲せしものにして丈四尺余寸あり。

虱目

虱目 [タツバク] (※サバビー) は、一見鮎に似たる魚にして海中に産し、その大なるもの三四尺より七八尺に至るといふ。土人六七月に至れば海岸水浅きところに網を曳きてその魚苗を捕らえ、これを池・沼・魚塢 (※養魚池) に放ち飼う。この魚は殊に南部に多し。昔鄭經 (鄭成功の子) これをたしなみさかんにこれが飼養を奨励せるをもってなお今日その飼養多きを致すゆえんなるべし。この魚は元来海魚にして南洋方面にその母魚ありといふ。今台南博物館にある虱目はその大きき四尺余寸あり。

草魚

草魚 [ザウヒイ] は、一間鯉魚に似て頭は鱧 (ぼら) のごとし。内地人は俗にこれを化鯉 (ばけごい) という。肉柔らかくしてはなはだ味美ならず。好んで草を食する魚なり。ゆえにこの名あるゆえんなり。

土龍および海鱧

土龍 [トヲリオン] または海鰻といい、これすなわち鱧にして全島至るところの海に産す。海鱧 [ハイサア] は海鰻に似たるもその体虎斑あり。陸上においてもよく物を見ること蛇のごとく、人に敵対し咬まんとす。性はなはだ猛悪なり。土人は干潮時に沙中に潜めるを探ね、魚扱 (やす) をもってこれを突き、捕獲す。滋養多しとしてすこぶる珍重す。

花跳仔

花跳仔 [ホエチアウアア] は、我が「ガタハゼ」にしてそのかたち鮎 (かじか) に似たり。江岸または鹹水魚塢 (※

養魚池)の岸に生ず。水上および岸辺を跳走すること蛙のごとし。土人これを捕らえ食するときは、滋養となり血を増すと称して珍重す。

その他鯉・鮒・鰯(ぼら)・鯰・鰻・ハエ・鱈(どじょう)・鯛・鰈(かれい)・鯖・鰹・鯊(はぜ)・鱻(ふか)・烏賊・タコ・鰯・鮪・鮫・鱈(さわら)・魴(ほうぼう)・鯰・コチ・アラ・鰯(まながつお)・太刀魚・グチ・鮠(にべ)・飛魚・髻魚(しゅもくざめ)等のたぐい数種あるも内地のそれと大同小異たるをもってこれを略す。(また亀、蟹類、蝦類、貝類もまた同じ)

第三節 鳥類

ペリカン

ペリカンは本島に生息せざるも、かつて阿公店支庁（※現在の高雄市岡山区）管内の海辺において捕獲したることあり。今台南博物館に複製となしあるもの、すなわちこれなり。あるいは南洋より流れ来るものならんかという。

鍋鶴、くろ鶴、あねは鶴

本島には丹頂は産せざるも、鍋鶴くろ鶴およびあねは鶴は蕃界池沼および海浜に生息せり。かつて南部において鍋鶴を捕獲したることあり。

ミカド雉

ミカド雉は、阿里山山脈に棲息するも容易に獲ること難しという。かつて某氏、有ゆる艱難を冒し数十日山中にありてわずかに雌二羽を獲たりという。もっていかにこれを獲るに困難化を知るべし。そうしてこの雉は欧州諸国においてもこの種これなしという。

竹鷄

竹鷄 [チクケエ] は、性質雉に似たり。濃茶褐色にして斑紋あり。雄は肉冠を有す。多く山地に棲息す。

加令

加令 [カアリエヌ]（※ハッカチョウ）は「烏鶯」に似て黒くやや大なり。頭に毛冠あり翼を張れば白紋あり。人家近くところに棲息す。これに教うればわずかに人語を真似す。

烏鶯

烏鶯 [オオチウ] は、本島至るところに産し、俗に「台湾カラス」と称す。その色濃黒にして尾は体に比しやや長し。内地鳥よりも体小にして性猛くよく他鳥を打つ。

白頭鵪

白頭鵪 [パエタウコヲ]（※シロシガラ）は、そのかたち内地の「シジュウカラ」に似たり。頭上白毛あるをもってこの名あり。よく苦茶（せんだん）の実を食す。

黄鶯

黄鶯 [ウンイエン]（※コウライウグイス）は、嘴大にして嘴および脚は濃紅色を帯び、大きさ鳥鶯よりもやや大なり。全体の羽毛黄色にして翼尖に黒紋ありてきわめて美麗なる鳥なり。また一名金鶯という。

花眉（画眉）

花眉 [ホエイ・オエイ] は大きさ「ツグミ」に似てやや小なり。眼眉に白毛を小豆。故にこの名あり。

鳥公

鳥公 [チアウコン] は花眉よりやや大なり。全身濃茶色にしてよく叢中に棲む。その声きわめて美なり。人呼んでこれを花眉というは誤りおれるものなり。

黄鷓 (※鷓はうぐいすの意味)

黄鷓 [ウンキエン] は体濃茶色、翼尾は赤茶色なり。翼尾は体に比して長し。大きさ鳩大なるも肉少なし。よく藪中に棲む。また近づけば疲憊(疲労困憊)せるものごとく、緩やかに甲藪より乙藪に飛び止まる。北部文山堡附近に多し。

鷓赤

鷓赤 [チアヌチア] (※サンバ) は、鷓のたぐいにして嘴・顎・足ともに長し。全体赤茶色にして大きさ鳩のごとし。よく田畦にたたずみ虫魚類の来たるを待つ。人近くも知らざるごとく、いよいよ接近するに及んで始めて飛ぶ。

五色鳥

五色鳥 [ゴオシエクチアウ] は大きさ雀のごとく、蕃界に棲息し、その毛五色にして美麗なり。ゆえにこの名あるゆえんなり。

以上のごとくにして家禽類および鴨・白鳥・鷓・鷓類・鴉・千鳥・鷓(ひたき)・百舌(もず)・鶺鴒(せきれい)・燕・小啄木(こげら)・雀・三光鳥・サンショクヒ・白鷺・五位鷺・大鷺・青鷺・梟・雲雀・鶺鴒・■(※解説できず)・椋鳥・鳩類・雉・杜鵑(ほととぎす)・郭公・筒鳥・鶯・虎鷓(とらつぐみ)・トウネン・エンタウ・大藪クグリ・シマドリ・長尾山娘・長尾珍・ヘラサギ等あるも内地のそれと異なるなきをもってこれを略す。

第四節 虫類

毒蛇

台湾に毒蛇の種類はなほだ多くその被害少なからず。去る明治三十七、八年の調査左のごとし。

毒蛇名	被害者	全治者	死亡者	未治者
百歩蛇	/	-/	-/	-/
青竹糸	/ 1 2 4	/ 1 2 2	/ -	/ 2
亀殻花	/ 9 2	/ 8 1	/ 8	/ 3
赤傘仔節	/	-/	-/	-/
雨傘仔節	/ 2	/ 2	/ -	/ -
飯匙倩	/ 1 9	/ 1 4	/ 2	/ 3
不明	/ 2 3	/ 2 0	/ 2	/ 1
計	/ 2 6 9	/ 2 4 8	/ 1 2	/ 9

これを各地方別にするときは、

台北9、基隆20、桃園7、苗栗8、南投9、嘉義18、台南8、蕃薯寮（花蓮）18、恒春46、宜蘭16、深坑28、新竹17、彰化2、斗六14、塩水港14、鳳山3、阿猴（屏東）21、台東11等なり。

水蛇

水蛇は北中部にあり。殊に清竹苗栗附近に最も多し。常に溝底または池底に棲息す。白昼陸上に上ること少なし。ただし日暮るや溝堤河岸に上がりて遊ぶ。人もし近づけば頭尾を直立して車のごとく回転して水中に入る。この蛇には毒なくしてかつて人を咬傷せしを聞かず。

蟻蟲

蟻蟲〔シエヌタン〕は宮守（やもり）にして南部地方に多し。人家の壁・天井・厨・箱、いかなるものにも棲息し、蚊を常食とす。故に人の居らざるところに棲まず。多く火のある箇所集まる。その鳴き声蛙に似たり。またこの虫の便液人体に付着すれば皮膚炎傷を起こす。

白蟻

白蟻〔ペエヒア〕は全島至るところに生ず。殊に南部地方において一夜にして草蓆を蝕れつくす。なお箱、厨、行李、畳等短時間に蝕害す。この巢は地下四五尺のところ樹皮のごときものを集めあたかも大蜂の巢のごとく丸くなしその間に通路を作りこれに棲む。その大なるものは三囲（※大きさの単位。一囲は両手を広げてひと囲みする長さ）にて足らざるものあり。今台南博物館に蔵するものはその小なるものなるもなお一囲以上あり。彼ら白蟻は蜜蜂と同じく一尾の大なる女王と数尾の雄蟻ありて他は皆働蟻にて食物を集め女王に供し居るものなり。女王平素は長さ五六分の蟻なれども産卵期前に至れば一寸三四分に肥大し来るといふ。

土扒仔

土扒仔〔トアペエアア〕は土人訛って「トツピヤ」と称す。そのかたち蟋蟀（こおろぎ）のごとくにして大きさ拇指大あり。體質肥軟にして柔軟なる羽あり。常に土中一尺ないし二三尺に穴して棲む。夜に出でて作物・植木等の茎を食断して枯らす。土人はこれを捕らうるにその穴に水を灌ぎ、水満つれば穴中より扒（は）い出ざるをもってこれを捕らえて殺す。

「土扒仔」日没に至れば穴口に出でて鳴く。声クツワムシのごとく連続して絶たず、夜十二時、一時頃に至りて止む。夏より秋に生ず。南部地方最も多し。

暗蟬

暗蟬〔アムシエン〕は中南部に多し。蟬の属にして体小に羽薄し。夏日暮るとき美音をもって「キツレイ、キツレイ」と鳴く。ゆえに土人呼んで「キツレイ」と称す。新竹付近最も多し。

加载（※いずれの漢字も虫へんがつく）

加载〔カアソア〕とは油虫にして全島至るところ屋内に生ず。殊に中南部地方に多く、厨・箱・行李・櫃等にありて紙・書籍・その他の器具を触る。人皆これを厭う。

水加载

水加载〔ツイカアソア〕（※フナムシ）は船中に生ず。南北部共に多し。そのかたち加载に似たれども、羽なし。これを生吞するときは麻喇里亜症（マラリア）を根治すという。

木虱

木虱〔バクサツ〕は南京虫（※トコジラミ）なり。本島人の寝台・蚊帳・寝具・衣服・草蓆等に生ず。土人はこれに螫（さ）さるるものはなはだしく意とせざるもののごとし。これ一は習慣性なるゆえんなるべし。しかれども内地人一度これに螫さるればたちまち紅腫し痒きこと耐うべからず。

四脚跳

四脚跳〔シイカアチアウ〕は土名にして蜥蜴（とかげ）のたぐいなり。長さ五六寸より一尺くらいのものあり。常に樹上に棲み、虫類を食とす。そのかたち画に見る龍の角なきもののごとし。樹幹を上下し枝より枝に飛跳すること速やかなるがゆえにその名あり。また一名「山狗太〔サンクタイ〕」といい、内地人は誤称して「サンコタイ」という。

蜜蜂

蜜蜂は全島至るところに生ず。殊に中南部に多し。皆な在来種にして野生多し。土人これを捕らえて養う。嘉義・台南・阿猴（※屏東）等の山に接したる村落にはこれを養うもの多し。今内地人にして外国種を養いかつ土人間に奨励しつつあるをもって、山に近き平地村落にも外国種を養うものあるに至る。

蜈蚣

蜈蚣〔ギアカン〕とは百足（むかで）にてその小なるものは台湾至るところに生ず。今台南博物館にあるものは台南大銃街にて捕らえたるものにして、幅一寸、長さ一尺ばかりのものあり。

ハブ

ハブは琉球に多し。台湾においては稀有にしてかつて基隆附近にて捕らえたることあり。今台南博物館にあるものは台南噍吧岬（※現在の台南市玉井区）にて捕獲せるものなりという。

以上の外の虫類は内地のそれと異なるなきをもって省略す。